（大正十二年四月二十二日第三種郵便物認可）

夕刊
九月九日發行
發行所　磐城新報社

童話　酒筒（下）

吉本生

百日のつとめを終へいよ〳〵本土に歸るに當つて船底にこつそりと酒筒をかくしておいた事は言ふ迄もない事です。

いよ〳〵船が出ますと風が吹き出し浪が高くなりとてもこれ以上船が動きさうにありません、それだのに空は暫く晴れてよいお天氣なのです、どうした事かと船中の人達は疑ひ始めました、ひよつとすると船中に島のものを持出してゐる者があるので、神樣のお怒りにふれたのだらうと誰いふともなく言ひだしました、論官は船の隅々をさがしますと船底から酒筒が出て來ました、持主が安左衛門である事もすぐわかりました「安左衛門、おまへは大變な事をしてくれた今迄にこんな事があつたためしはない、神樣のお怒りで船が動かないがどうするつもりか」と言葉鋭くせめられましたが、安左衛門にしてみれば罪をおかしたとは思つてゐませんので、神樣にいたゞいた理由を言つて捨てやうとはしません、しかしそんな事を信用するものは一人だつてありません、安左衛門の言ひわけもしりぞけられて酒筒は海中に捨てられましたに、同時に今迄の風も浪も一時にとまつて、もとの鏡のやうな靜けさア

本土へと進み始めました。ところが不思議なことに拾られた酒筒が船と並んで流れてきて　どう〳〵船とゝもに本土に着きました。

安左衛門はやはりこれは神樣が與へて下さつたのだと思ひ、それをもち歸つて父親に渡しました。おまけにこの酒筒はどんな水を入れてもすぐにいゝお酒となる不思議な酒筒でした。安左衛門は水がお酒に變る酒筒を見てどんなに喜んだらうかと、父親の顏を見るのが嬉しくてたまりませんでした。

これは　神樣が安左衛門の孝心を深くお感じになつし、御褒美として下さつただといふうはさがひろがりました。殿樣のお耳にもこのうはさがいつとはなしに傳はり、たくさんの御褒美を下さつたと言ふことです。

〇

針を拾はんとして枕を落すことあり　支那俚諺

9月10日

△俳人去來歿す年五十三（寶永元）△大[illegible]從者の制を定む（元祿一二）△支那事變第十三回論功行賞發表（昭和一四）

連續講談　異說赤穗浪士

別題「異說赤穗義士」「赤穗誠忠錄」

[3]　桃川若燕

講　城木喬

饗應役

ところが、俗に云ふ虫が知らせたといふか　內匠頭は余り氣が進まない、で、土屋相模守とは、豫ねて昵懇の間柄なので、その役宅に出向いて行つて、

「勝手ながら、御役御免の儀を願ひ度う存じまする。斯る大役を不肖の某が勤めまする事とは、冥加至極、有難き仕合はせには存じますなれど、何分某は天奏使饗應のお役に就ては一向不案內、且つ田舍の武骨者にございますれば、此度のお役目だけは、御免を願ひ奉りまする」

と辭退を申出でた、が土屋相模守はそれを制して、

「イヤ〳〵、其儀なれば決して御心配なきやう。毎年夫々變つて勤むる天奏使饗應役なれば、不案內なのは其許ばかりではござらぬ、そのために師匠番といふものも召し抱へてあるわけなれば　御不案內の事は、何事も萬事、高家吉良上野介に御相談なつて　相勤められるやう。彼は、右禮典禮萬端に通曉致して居る者故を師匠番としてお務めあれば、御身の御粗相といふものもござるまいか」と思ふ」

さう、土屋守から云はれると、內匠頭もそれでもとは辭退出來ない。

「ハハツ、有難き仕合はせにございます。然らば吉良殿より宜敷く御指導を受て、無事相勤めまする樣[illegible]」

已むなく引受けてしまつた。

內匠頭は、屋敷へ歸ると江戶家老安井彥右衛門、藤井又右衛門の兩人を呼び出して、右の趣を申傳へた上

「就て、吉良上野介が、吾々の師匠番であるから唯今までにお役を勤められた方々のところを二三間合はして、吳々も落度無きやう取計らひ吳れよ」

「畏まり奉ります」

と兩家老は退出する。

時に淺野家の江戶留守役は、建部喜六といふ人物、この人は別段惡人ではないが　世に謂ふ忠臣、唯だ正直一途の人だ、融通が利かない。ところが、世の中に留守居役位六ケ敷いものはない。主人の顏をよくするのも惡くするのも、皆留守居役の手腕一つ、諸侯の間に立つて、留守居役仲間の交際をする。この交際によつて他藩との關係をうまくつける。場合によつては酒色を共にし、又色街にも出入りせねばならぬ。

それを唯孔子の道ばかりを說いて、堅苦しい事を云つてゐたのではうまくゆかな。

「彼奴は話せぬ男だ」とばかり仲間はづれにされてしまふ。これでは他藩との接觸がうまく行かう筈がないたから交際のためには花柳の巷に足を入れる事も必要にし金も　使ふべきところには、ハデに使はなければならない。とに角留守役たる者の人物は　余程しつかりした世事に明るい人でなければ勤まらない、

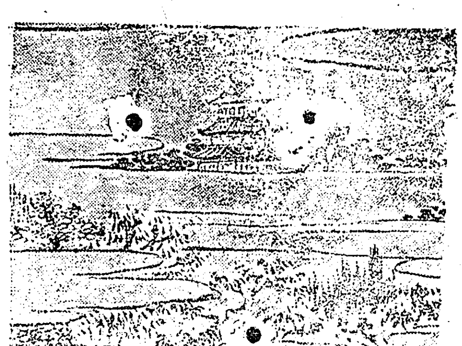
然るに淺野家の留守居役は、先年までは堀部彌兵衛金丸老人が勤めてゐたが、其後金丸老人が番頭になつので、建部喜六が之に替つた。建部といふ人物は眞面目一方の人、何事も儉約々々で、無駄な金は一文も使はない主義、随つて他藩との交際も自然疎遠となつて、余り評判はよくない。

藤井、安井の兩家老も、之に倣つて儉約を旨としてゐる。儉約元より結構であるが、使ふべきところにも金を使はないから、人はよくは言はない。

「どうだ、今度の淺野家の留守役の建部といふ人物は……」

「どうも話にならぬ、前の金丸老人は非凡の人物だつたが、今度の留守居役は、いくら田舍侍とは言ひながら、ひどく物の判らぬ男だ美味い物を食はしても、味も判らぬし、あんなものを淺野家の留守居役としておいては、今に何か間違ひを仕出かすだらう」

「そんなものは、まア相手にしない方がよいな」



朝涼

秋山八重子

○下り立ちて朝はすがしも露ふくむダリヤを切りて子に持たせけり

○朝のまの露にぬれつゝほたるぐさ咲くあはれさを心にとめつ

○夏庭に我が持ちし花の山百合の香にたつ今朝はこゝろすがしも

○山往くと夫が旅出の朝晴れぬ子等と送りて門邊にたてば

○雨となるらむ空の氣配や朝顏は莟ちかくして咲きのまゝなる

おでん
たつた揚
やきとり
一平

新刊書籍
月刊雜誌
取次開始
特賣圖書販賣店
三英堂　村山書店
平市中央通（驛前通）

日米專賣特許
防空暗幕
東京防空相談所推奬
從來の防空暗幕地の缺點を一掃したる驚異的發明品
一枚にて完全遮光
◆御一報次第參上
防空暗幕の設計と施工
敷島屋商店
平市六丁目六
電[呼]四八三番

西村屋藥局
電話三番です
藥品百貨と
寫眞機材料ノ店です
平市本町二丁目
西村屋藥局

㊫
中等學校制服……大特賣
高嶋屋の洋服
男女學生服
新入荷
並ニ注文既製品
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

りんびやう こしけ病
專門藥
岩里別府淋藥　一週間分參圓（黑）五圓（赤）
痛みある病。熱ある病
岩里別府散　七包入五十錢　十五包入壹圓
製藥本舖　別府市　岩里天然堂
平市古鍛冶町一〇
代理店　阿康藥局
電話四十四番
振替東京三〇〇六五番

一般貨物運搬
時代に即應せる新陣容を以て迅速低廉に御取扱ひ致します
福好工業合資會社
代表者　强口唯七郎
自動車部
電話二八二番

ユアサランプ
電池配給所
自轉車とリヤカーハ
矢野輪業商會
電話七三〇番
振替口座東京[illegible]番

外科、內臟外科
エツキス光線科
平市[illegible]町
院長　安齊徹
入院隨意
安齊醫院
電話四七五番

開院
外科一般
內臟外科
整形外科
肛門病科
性病科
レントゲン科
平市南町（平郵便局本局裏通り）
上田外科醫院
院長　上田耕作
電話一二九番

內臟外科
整形外科
胃腸
性病
內臟外科　腦脊髓病科　外科
整形外科　レントゲン外科　理學療法科
內科　胃腸病科　肛門病科
花柳病科　皮膚科　泌尿器病科
醫學博士　松村亨
醫學得業士　松村鐵郎
平市南町
電一〇七
松村醫院

耳鼻咽喉科專門
レントゲン科
高柳醫院
醫學博士　高柳博明
平驛前　電三三六

重田眼科
眼科專門
眼鏡檢定
平驛前
重田醫院

食事。喫茶。酒場を兼ねた
レストラン
サロン
營業時間
開店…午前十時
御食事は午前十一時より
閉店…午後十一時限り
平市銀座街
電話五九二

平病院（平市元共濟病院跡）（電話六四一番）
院主　院長　醫學博士　鈴木定藏
內科　小兒科　院長　副院長　鈴木定藏
內臟外科　一般外科　皮膚泌尿器科　副院長　高橋俊幸
レントゲン科　物理的療法科　院長　鈴木定藏
藥劑科　部長　吉本孝平
診療時間…每日午前八時ヨリ午後九時迄、夜間診療ニ從事ス（急患ハ此ノ限リニアラズ）

產婦人科
井坂醫院
平市田町　電五五九
見習看護婦入用

生花教授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平市四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

月曜論談

政黨心理の清算

近年政黨無氣力時代に入つてからこそ其の存在が極めて華々しくなかつたものの、兎まれ長い間地方に所謂政黨的に大きな力を持つて居た石城政友部會も亦刻下の新体制に即應し、愈よ此程完全に解消した。顧へば地方約に幾多特異の過程はあつたにせよ明治三十三年九月十五、伊藤博文を中心に憲政黨を母体として結黨された舊自由黨系の地主的勢力を代表して創立された大政黨の末流として今に至つた石城の政友部會が遽然として解消し今日以後僅かに凉台爐邊の語り草となり了つた事は、素より時代の然らしむる處として餘りにも當然な事であるが、少くとも此の黨に大なり小なり黨人としての關係を繋いで來た程のものは、短か當籤の正夢が持ち上つた處から俄然人氣を沸き立たせてゐる報國債券の第四回は愈よ明十日を以て賣り出されるが平局への割り當て約一萬圓中今九日朝迄に申込みの豫約は十圓券（一等割増し一萬圓）百五十枚、五圓券（同五千圓）五十枚程度で今の處案外ピッチが上らぬが、イザ賣り出しとなれば各方面から殺到する買ひ焦りに蓋あけと同時に市内各郵便局、銀行、無盡會社とも相當混雜するものと豫想される

滿場一致解消決定

新体制即應の石城政友

既報石城政友部會の懇談會は一昨七日午後一時から市公會堂日本間に開催したが出席者は金成前上院議員、安島元代議士、新田目元縣議、小野（副部會長）赤津、木村、蓮沼各縣議、川崎幹事長其他常任幹事三十餘名

遙拜、默禱の時局式の次例の如く終つて鈴木部會長から近來の政情説明に次いで『新体制に即應して石城政友部會解散の件』を諮つて滿場異議無く之れに決定、市郡下に多數の同志を擁し、長い間強力な地盤を張つて來た古い歴史を有する立憲政友會福島縣支部石城郡部會は開議二十分茲に完全に解消した

一萬圓也の報債

明十日第四回賣出し 各所共大賑ひか

二十二日から五日間平第三小學校で行ふが願書締切は十月五日

滿洲農業の開拓視察員

渡邊、泉から二名

渡邊、泉兩村で縣が十月初旬十五名前後送る滿洲農業關拓地視察班員として一名宛の中堅青年を銓衡、推薦するが班員には一人百圓の補助が出る

磐中生張り切る

薫育方針に新体制 海軍方面の受驗者好成績

磐中に於ける薫育方針の新体制は今春の上級學校合格率に飛躍的の實績を示し、師弟父兄間とも曾てなく張り切つてゐるが過般行はれた海軍關係（兵學校、機關經理各校）の受驗者も今迄になく十名近の多數に上り而も体格で落ちた一名を除き他は略ね最終迄殘つたと

縣參一行會計檢査

明後十一日から開始

縣參事會員一行の今年度會計檢査は明十日平市集合、十一日より甲乙二班に別れ左記日割で執行する

（甲班）大竹、高野星、加藤、大木、十一日平警察署、夏井川改修事務所、十二日磐城中學校、平保健所、十三日植田警察署水産講習所、十四日江名港修築事務所、十五日四倉警察署

（乙班）唐橋、志賀、赤津金子、川田、十一日平土木監督所、平稅務出張所、十二日磐城高等女學校、蠶業取締所平支所、十三日水産試驗場、十四日回春園、十五日四倉港修築事務所

磐崎好成績

米供出相次ぐ

平署では目下署員を動員『興亞の力この一粒に』と米供出に當つてゐるが磐崎村は割當を遙かに突破して管内一の成績である

常會長講習始まる

既報、常會組織の實踐者矢部氏を講師とする市常會長指導講習會は今九日から三日間市公會堂に開催

大瀧問題委員會

市では十二日午前九時から大瀧發電所調査委員會を開く

防空訓練を前にし市で各種協議會開く

市では來月一日から實施される今年度第三次防空訓練を前にし、二十日防空指導員會、二十四日家庭防空群長打合會、二十六日市吏員防空打合會を開き萬全を期する

大谷時計店員献金

市内三丁目大谷時計店々員一同は一錢貯金の金三圓を國防費として平署へ寄託した

明二百廿日大体靜穩

一望萬頃の美田に稻の波穰々と 愈本格の秋晴れ近づく

愈よ明十日が二百廿日である。嵐の前奏らしい兩三日來の險惡な天候も今朝來頓に納まり氣味乍ら斷續する北風に行く雲のたゝずまひ依然おだやかならず、未だ全幅の安心は出來ぬにせよ今の處大体靜穩の嬉しい見立てゞ今秋の豊收は今や全く既定の事實となつた樣である

七日午後小笠原父島西の海上の颱風は本州強襲を斷念北東に針路をとり八日午後は銚子の東の海上二百キロの點まで進行更に北東に向つて進行中であるが、一方八丈島南方の颱風は一向に動かうともせず腰を据ゑてゐるので今後どの方向に針路をとるかゞ問題だが、これも行動を開始すればまづ遙か房總沖を北東に通過するものとみられ陸上にはさしたる影響はないこれが納まれば愈よ秋晴れに入る見込みであると

農家組合強化協議

既報、市農家組合を法人化して産業組合に併合せしむべき協議會は十三日のところ明十日午前八時から市會議事堂に開く

滿洲産業視察へ

小名濱町海産物加工組合長伊藤三男氏は縣産業代表として二十日一行五名と共に滿洲國の産業視察に赴く

縣下青年体育近づく

郡豫選昨日終る

縣下青年團体育大會は來る二十九日午前八時から平商業學校グラウンドで擧行するので郡青年團ではこれを前にし昨八日小名濱小學校で選手選拔競技會を開き出場選手を決定した

神宮体育柔道二代表決る

第十一回明治神宮國民体育大會本縣豫選武道の部は八日福島武德殿で開いたが地方關係代表は柔道だけに決つた

△中等學校の部 櫻井勝英（磐中）

△一般の部 阿部文平（磐中教師）

寄附

市内材木町一九長谷川左武郎さんは歸還記念として金五圓を市銃後奉公會へ寄附

實彈時擊參加受付

既報、十八日のの滿洲事變記念日に市在鄉軍人分會聯合會でも神谷村東部射擊場で實彈射擊大會を開くので目下參加希望者を募つてゐるが資格は十七才以上四十才以下男女を問はず優秀者には師團長賞、聯隊區賞、司令官賞、知事賞が出る

國民体力法打合

市では來る十七日市會議事堂に國民体力法打合會を開く

物見ケ岡例祭

市内小社物見ケ岡稻荷神社の例祭は十六日執行

献金

植田町小濱箱崎藤太さんは亡子の遺志により金十五圓を國防献金

平市慶弔錄

△出生 古鍛冶町九二鳳城充氏二男順保君、本籍中塩字鬼馬五〇滿洲國奉天省遼陽市大和通一四吉田仁士四女幸江さん、

▲死亡 本籍禰宜町五八好間村北好間字推木平五二鈴木深治郎氏（西）

聞大平未亡人養病賦贈

珠雲 小野務平

弟在軍黌兒遠征
日親湯藥若何情
唯當攝養除痾早
巾國猶抽銃後誠

陣中を聽く

（837）

殺人的暑熱を征服 元氣で任務に邁進

白銀町出身 松本健次郎君（通信）

前略、去月某方面に出張を命ぜられその間久しく御無沙汰して申譯ありません

叔父母上樣には御健在の由喜びに堪へません。小兵現在地に於て益々士氣の旺盛殺人的暑さと戰ひ毎日任務に邁進して居ります故御安心下さい。

今日は數通の便りを戴きまるで盆と正月が一度に來た樣な嬉しさです。

當隊は大陸中支でも水に惠まれて居ります、四圍は山岳で谷間には美しい小川が流れて居り、所々よりは清水がどん〳〵と湧いて居ります、時々清水を頭よりかぶるのも實にテンハホですね。

山には時節により果もの梨子、桃、なめつ、梅等たくさん成ります、果もの云へば内地のくだものを思ひ出しますが、内地のものの樣に美味しいのではありません、とても酸つぱいのですそして小さいです、それでも兵隊は一本のくだものゝ木を見つけると、吾先にと行き喰くらです、僕いずもぶん喰べました、石の樣に堅いやつを、或時はクリークに魚取りに行きますクリーク鱒がたくさん取れます、それは先づテンプラですね、

今日は班内休養、戰友達集り故郷の噂談をして樂しむします、先は亂筆にて御禮しました。

落雀の猛暑

中山武夫君

前略戰友とお別れしてより早々×月、引續き無事前衛の地に於て働いて居ります。大陸の夏を迎へることゝ度目、馴れたとは謂へ文字通りの炎暑です。殊に武漢三鎮は通稱落雀の猛暑と呼ばれつゝあり、又印度人が避暑に歸國すると云ふ程の酷熱です。夜間室内にては堪へ切れず、屋上の物干しや道路上に熟睡を求める有樣です。斯る三伏の暑れにも東亞の禍根を除去するため身命を賭し日夜御奮闘なさるる皇軍の勞苦を思へば如何なる困苦にも堪へ得ないことはないと存じます

揚子江上假泊の舟の煙が眞っすぐに沖天に昇るを見ると又内地も嘸かしと察せられます（後略）

關彰氏下館町長就任

地方各種油類の販賣界に王座を占むる市内二丁目關彰氏は過般來郷里茨城縣下館町長に就任の交渉を受けて居たが一昨七日夜愈よ正式に就任を受諾した

市の商工相談

十三日市會議事堂で行ふ

植田女生放送

植田小學校六年生鈴木知子、一條美子、伊達公子、中根とめ子、引地美代子、鷲君代鬼澤綾子、三好德子さん達は菅野訓導の伴奏で十五日夜HKの子供の時間に齊唱日本三景、瀧三才女、菅公などを放送することゝなりみんなハリ切つて練習に精進してゐる

ロンドン事情を聽くの座談會

新歸朝者海野氏を圍んで 昨夜經濟研究會の試み

新歸朝者三菱社員海野莊一郎氏から倫敦の近狀を聽く平經濟研究會主催の座談會は昨八日午後七時から常陽銀行支店樓上に於て開催したが出席六十餘名、初夜の夜雨に一同落ち着いた氣分で質問應答の懇談を重ね各自時局柄大に有益な收穫を喜び乍ら十時閉會した。尚は今夜は江尻博士、熊谷第二訓導ら主催の磐中同級生關係の同樣會合があると

天氣豫報

小名濱側候所觀側

今晩 北東晴後曇 驟雨模樣

明日 北の風晴一時曇

十日

【小名濱測候所觀側】

滿潮前〇、〇〇 後九、四〇 干潮前 二、五〇 後四、〇五

舊八月九日 火曜 丙辰 佛滅 危宿 新九月十日

▲一白 空想をたくましふする時は實利に遠ざかり行くべし▲二黑心を靜め節約を旨とし從來の業を守るべし▲三碧 けん遜自重するときは災ひも福と成り來べし▲四綠 陰忍して時運の開通し來る時を待つが安全▲五黃 横走りせず本業を眞直に進み行くを安全とす▲六白 投機には失敗文學上の事には成功大吉の日▲七赤 今日始めたる事業は永久に亘りて榮ふべし▲八白 働きたる割合にかう果少なき日和合注意の事▲九紫 之まで苦にし居りし事の始めて成就する日

おでんとヤキトリ 田町未廣トナリ 一柳

耳鼻咽喉科 増田醫院 醫學博士 増田之 ◎入院應需 平市紺屋町（電六五一）

病室・手術室完備 産科 婦人科 醫學博士 五十嵐雄二 （物理療法科併置） 〔入院隨時〕 平市新川町（電話三六九番）

硝子類一式實用價販賣 菓子壜、美術食器 板ガラス、陳列ケース 各種 平市一丁目 薄ガラス店 ◎窓硝子スピート修理致します

建築木材ノ御用命ハ 木材、天上板、ベニヤ板、建具材、木羽、便利瓦、建築木材一式 万織田材木商店 福島縣平市 電話平四六〇番 製材工場 磐越東線赤井驛前（大作場二五） 電話二三五番

簡易金融 小口も歡迎いたします 茨城相互株式會社 平出張所（金融業） 綠川喜三郎 假事務所 平市才槌小路四二

江戸前 壽しと 小料理 平驛中央通り 出前迅速（立食） すし茂 電（呼）五七〇番

配達さん募集！ 市内居住、尋六乃至高等科生 磐城新聞社